

どんな研究？

- ・会議において行われる会話の状況を自動的に分析する音声映像技術
- ・心理学・社会学への貢献も視野に：人間同士のコミュニケーションをよりよく知るための技術

もたらされる変革

- ・マルチメディア議事録の作成支援
- ・大量の会議収録データの頭出し・検索
- ・他地点/多地点間でも豊かなコミュニケーションを実現
- ・実環境における音声映像処理技術の確立

展示紹介

・下記の5つの技術により、会議における右記6W1Hのうち5W（いつどこで誰が誰に何を話しているか？）を推定します。更にこれらの分かりやすい表示に基づく会議収録データの利用例を示します。

- ①リアルタイム&マルチモーダル対話シーン分析
- ②高速かつ頑健な顔方向追跡
- ③会話音声認識・検索技術
- ④聞きたい話者の声を分離抽出する技術
- ⑤音声の残響除去とそのソフトウェア

荒木 大塚

連絡先：荒木章子/大塚和弘
メディア情報研究部
信号処理研究グループ



マイク君 とカメラ君 のコミュニケーション理解への挑戦

先日の会議…



会議中の6W1Hを自動推定

When いつ？	Where どこで？	Who 誰が？	Whom 誰に？	What 何を？	How どのように？	Why なぜ？
-------------	---------------	------------	-------------	-------------	---------------	------------

後日…



あの時、何と言ってたっけ…？
検索してみよう

会議状況の表示



→ 顔の向き → 発話の有無

システムの答え：Cさんが注目を集めながら
「それが良いわね」と喋っている

- ・遠隔地や過去の会議の雰囲気まで一目瞭然！
- ・大量会議収録データを一発検索！